

教科	科目	単位数	学年	集団
体育	スポーツ I	1	3	スポーツ探究科

使用教科書	副教材等
なし	アクティブスポーツ（大修館書店）

科目の目標 体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。 (1) 採点競技及び測定競技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。 (2) 採点競技及び測定競技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3) 採点競技及び測定競技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	採点競技及び測定競技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解している。また、採点競技及び測定競技の推進及び発展に向けた技能を身に付ける
②思考・判断・表現	採点競技及び測定競技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を身に付けている
③主体的に学習に取り組む態度	採点競技及び測定競技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている
評価方法	
①知識・技能	(記録測定会・ノートによる点検)
②思考・判断・表現	(記録測定会・ノートによる点検)
③主体的に学習に取り組む態度	(ノートによる点検、行動観察)

学習計画						
月			単元や題材などの内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	陸上競技 (混成競技) ①80m ②80mH ③400m (男子) 300m (女子) ④走幅跳 ⑤ジャベリックスロー		<ul style="list-style-type: none"> ・80m、80mH、走幅跳、ジャベリックスローは1年次からの復習ができています。 ・400m (300m) においてはスタートからスピードに乗せ、リズムカルな腕振り、リラックスした走り、失速を最小限にとどめることができる。 ・各種記録を得点化しその合計の記録で勝敗が決まるため、記録を常に意識しながら練習に取り組むことができる。 	○	○	○
5			<ul style="list-style-type: none"> ・各自が工夫して練習を行い、記録向上を目指す。 ・記録を短縮したり、競走したりすることで達成感や充実感を味わうことができる。 ・メカニズム、基本動作（ドリル）、トレーニング方法を理解する。 ・リズムカルな助走から力強く踏み切り、腕と脚のバランスをとることで空中動作を行い、その流れの中で両脚を前に投げ出す着地動作ができる。 	○	○	○
6			<ul style="list-style-type: none"> ・各自が工夫して練習を行い、記録向上を目指す。 ・砂場等の環境において安全性が十分に整える等、安全対策ができる。 ・記録を短縮したり、競走したりすることで達成感や充実感を味わうことができる。 	○	○	○
7	水泳 平泳ぎ25m		<ul style="list-style-type: none"> ・ブル、キック、呼吸動作のタイミングを合わせて泳ぐことができる。 ・水の抵抗を意識し、ブルのかきおわりと同時に息を吸い、キックの蹴り終わりに合わせてストリームラインを維持して大きな伸びをとることができる。 ・キックはカエル足で長く伸びることができる。 ・25mを全力でスピードに乗って泳ぐことができる。 	○	○	○

9	水泳 平泳ぎ50m		<ul style="list-style-type: none"> ・50mを全力でスピードに乗って泳ぐことができる。 ・各自が工夫して練習を行い、記録向上を目指す。 ・記録を短縮したり、競走したりすることで達成感や充実感を味わうことができる。 	○	○	○
10	陸上競技 (混成競技) ①80m ②80mH ③400m (男子) 300m (女子) ④走幅跳 ⑤ジャベリックスロー		<ul style="list-style-type: none"> ・80m、80mH、走幅跳、ジャベリックスローは1年次からの復習ができています。 ・400m (300m) においてはスタートからスピードに乗せ、リズムカルな腕振り とリラックスした走り、失速を最小限にとどめることができます。 ・各種記録を得点化しその合計の記録で勝敗が決まるため、記録を常に意識し ながら練習に取り組むことができます。 	○	○	○
11			<ul style="list-style-type: none"> ・各自が工夫して練習を行い、記録向上を目指す。 ・記録を短縮したり、競走したりすることで達成感や充実感を味わうことが できる。 ・メカニズム、基本動作(ドリル)、トレーニング方法を理解する。 ・リズムカルな助走から力強く踏み切り、腕と脚のバランスをとることで空中 動作を行い、その流れの中で両脚を前に投げ出す着地動作ができる。 	○	○	○
12			<ul style="list-style-type: none"> ・各自が工夫して練習を行い、記録向上を目指すことができる。 ・砂場等の環境において安全性が十分に整える等、安全対策ができる。 ・記録を短縮したり、競走したりすることで達成感や充実感を味わうことが できる。 	○	○	○
1	陸上競技 長距離走		<ul style="list-style-type: none"> ・長い距離を走りきる方法を理解し、実践することができる。 ・リズムカルに腕を振り、力みのないフォームで軽快に走るこ とができる。 ・一定のペースで長い時間、走りきるすることができる。 	○	○	○
2						
3						